

2016 年度数学教育学会 夏季研究会（関東エリア）

日時 2016 年 7 月 24 日（日） 9:30～17:00
会場 文教大学 教育学部（越谷キャンパス）13 号館 2 階
13201（第 1 会場）、13202（第 2 会場）
顧問 峰村勝弘（日本女子大学名誉教授）
実行委員長 白石和夫（文教大学教授）
実行委員 石井 勉（文教大学准教授）

一般発表申込み期限； 7 月 1 日（金）、
原稿締切期限； 7 月 8 日（金）
（原則 PDF、Word で作成したときは WORD ファイルも添付）

プログラム

9:00 受付

9:30 課題発表 学会課題 SG 報告（仮題）

- ① 落合卓四郎（東京大学名誉教授）、
河合博一（駿台甲府小学・中学・高等学校元校長）
「次の時代を見越した新しい数学教育を考える」
- ② 町田彰一郎（埼玉大学名誉教授）
「数学教育の今日的課題、特にデータ社会に向けて」
- ③ 白石和夫（文教大学教授）
「特に、Computational Thinking に向けた教材開発」

10:40 自由発表 I（複数会場予定）
発表論文公募中

12:30 昼食

13:15 自由発表 II

- ① 鈴木俊洋（上智大学非常勤講師）「数学の現象学」（仮題）
— 今日の数学教育の状況に含まれる状況を現象学の立場から解説 —

② 発表論文

14:30 シンポジウム 「21世紀の数学教育を考える素地として

日本の数学教育を歴史の中に振り返る ―江戸から平成―

コーディネータ 町田彰一郎（埼玉大学名誉教授）

以下のような内容を考えています。最終的には各パネラーが設定します。

「現実とのかかわりの中から作り出す数学。学校と地域の連携

―江戸の人たちは日本の数学教育をどのように作り出したか―」（仮題）

町田彰一郎（埼玉大学名誉教授）

「現代化」；それは、日本の教育に何をもたらしたか（仮題）

藤田 宏（東京大学名誉教授）

「現代化」を当時の学校現場はどのようにとらえようとしたか（仮題）

神山輝夫（元埼玉県高等学校数学教育研究会会長）

Post 現代化の教育課程で強調されたこと（仮題）

吉川 成夫（國學院大學教授、元文部科学省教科調査官）

17:00 終了

参加費・資料代

学会員、一般 2000円、 学生 500円

連絡先：原稿送付先 文教大学教育学部 白石和夫

〒343-8511 越谷市南荻島 3337

E-mail : shiraish@koshigaya.bunkyo.ac.jp

Tel 048-974-8811（代）

交通手段 学内に駐車場がないので、車、バイクでの来校はご遠慮ください。

① 東京 [JR 山手線/京浜東北線] → 上野 [東京メトロ日比谷線]

→ 北千住 [東武スカイツリーライン 急行/区間急行]

② 渋谷 [東京メトロ半蔵門線 急行]、越谷 [東武スカイツリーライン]

→ 北越谷

③ 渋谷 [東京メトロ半蔵門線/銀座線] → 表参道 [東京メトロ千代田線]

④ 新宿 [JR 山手線] → 日暮里 [JR 常磐線]、北千住 [東武スカイツリーライ

ン 区間準急] → 北越谷

⑤ 大宮 [東武アーバンパークライン] → 春日部 [東武スカイツリーライン 急行/区間急行] → せんげん台 [東武スカイツリーライン] → 北越谷 (約 40

分)

⑥ 南浦和 [武蔵野線] → 南越谷 [乗り換え；徒歩約2分] 新越谷 [東武スカイツリーライン] → 北越谷

